

■会議結果報告書■

会議名称	第13回札幌市子どもの権利委員会
日時・会場	平成23年8月9日（火）16：30～18：00 市役所12階3～5号会議室
出席委員	10人出席
次回開催	未定（10月頃を予定）

議題	概要等
1. 議題 子どもの権利に関する広報活動について	<p>○資料3に基づき事務局から説明 (意見交換)</p> <p>「1 広報活動について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ページ「直接には子どもと関わりを持たない大人」という表現があるが、札幌市からはこういう大人が出ない方がいいので、なくてもよいのではないか。 ・前段の「子どもに関わる」という表現も限定的なものでなくてもよい。 ・資料にこの表現を入れた意図はどこにあるのか？ (→事務局：子どもの権利条例については、すべての大人が関わるのが当然ではあるが、現実問題として、子どもと関わりを持っておらず、興味関心を持ってない大人がいるのではないかという議論が前回までの委員会にあり、そこを念頭に置いた表現となっている。) ・そのような意図を考えると、単純に子どもと直接関わりを持たない大人という表現も意味をもつのではないかと。 ※ 委員長：事務局と相談して、最終的な表現を次回お諮りしたい。 ・サポーター養成講座について、現在の状況を教えていただきたい。また、広報について出るのが遅かったのではないかと。 (→事務局：今年度から基礎編と実践編に分けて実施しており、各回ごとによっても異なるが、5～20の方が受講している。広報については、今後検討したい。) <p>「2 対象について」(1) 大人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つ目の・に「全ての市民が」と記載しており、後のところでは全部「大人」という表現になっているが、何か考えがあったのか。 (→事務局：通常「市民」という場合、大人子どもを含めて使うが、表現は工夫したい。) ・3つ目と4つ目の・は、表現が違うが、ともに地域への広報活動ということで、内容は同じであり、3つ目については広報の内容と言うより、解説のようにになっている。 <p>(2) 子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ページ4つ目の・では「今後検討すべき」となっており、学校としてもありがたい。 <p>(3) 職員・教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が子どもの権利について取り組むのは非常に大きく、これまでも実施しているが、これから前に進まない。教員研修や職員研修そのものの中身を市民に理解していただくようなことがあっていいのではないかと。 ・現在の表現では、まずは市内部から進めていくという宣言のように感じるが、職員・教職員が理解したことを地域などにもフィードバックしていくことが重要といった表現を加えることがあっていいのではないかと。 ・理解ある教員のもと、子どもが子どもの権利について理解し、しっかりと行使できるようになり、変わっていくということで十分かなという思いもある。 (→事務局：いただいた意見を踏まえて再度諮りたい。) <p>○子どもの権利委員会おすすめの本についての提案 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が興味を持ちにくいと思われる子どもの権利について、今ある文学作品などの中から、子どもの権利を意味するのではないかとこのものを委員が選定し、それを紹介するという提案が委員からあったので、委員会で検討していただきたい。 (意見交換) ・興味深い提案だが、各委員が選定するとなるとかなりばらつきがあり、受け取った側がどう解釈するかが難しいと感じる。 ・対象は、大人と子どものどちらになるのか。 (→事務局：義務ではないが、まずは選んでいただき、事務局でその一覧を作成し、次回の委員会にお示しして、どのようにしていくのかを検討していただきたい。)

	<p>分野も広く、あまり広げすぎると收拾がつかない面もあるが、子どもの権利の理解を進めるという部分で協力いただければと考えている。対象については、大人と子どもの両方を考えている。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に幅が広く難しい。 ・2年間の委員を終えるに当たり、子どもの権利に関してどのような思いで取り組んできたのかとも関係する。この本は、子どもの権利とこのように関係するというのも書き、切り口を明確にすることで他にはあまりない読書紹介のひとつになるのではないかな。 ・委員がコメントを付けて提出したとして、それは札幌市が推薦ということになるのか、子どもの権利委員会が推薦したというものになるのかを聞きたい。委員会の委員は任期で交代するので、委員が代わるたびに推薦する本を重ねていくということなのか、札幌市がある程度考えてシリーズで推薦していくことになるのか。 (→事務局：子どもの権利委員会という立場で紹介いただきたいと考えている。第二期の委員になった場合改めてうかがうことになり、今回推薦いただいたものが未来永劫そのまま残るといったものではない。) ・委員の誰が推薦し、どのような視点で推薦したかが明記されるのか。 (→事務局：推薦した理由についてはいただくことになるが、委員名は掲載しないことになると考えている。) ・提案は画期的だが、委員会として選んだものが推薦図書という形になるのは重さも感じる。 <p>※ 委員長：各委員心配な面はあると思うが、まずはやってみるということが必要ではないか。(→了承)</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定に当たってのポイントなどを整理し、後日様式を送付させていただく。次回の委員会で選定いただいた一覧をお示しし、議論いただきたいと思うので、9月末ころまでに提出いただきたい。
2. その他	<p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回委員会は10月頃を考えており、日程については改めて調整させていただきたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>